1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数	
	5年時	6年時	5年時	6年時
H31 入学 現6年生	県	全国	県	全国
	(4月)	(4月)	(4月)	(4月)
	66.1	64.0	56.5	58.0
	(0.94)	(0.97)	(0.84)	(0.94)
R6 正答率の全国比		0.95		0.91

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎「令和6年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【現6年生】

- ・国語の正答率は全国比0.95、算数の正答率は全国比0.91で、国算共に全国よりやや低い正答率であった。
- ・国語では、問題文の内容をとらえることや登場人物の心情の読み取り、言葉の使い方に関することで課題が見られた。
- ・算数では、無回答率が高く、特に「データの活用」に関する問題での無答が多かった。複数の条件に応じて答える問題や、表やグラフから必要な情報を読み取り、判断し、考えを記述することに課題が見られた。
- ・意識調査では、全体的に学習意欲が低く、生活の中で学んだことを生かそうとする意識も低かった。「放課後や週末に何をしてお過ごしが多いですか(複数選択あり)」の質問について、「家で勉強や読書をしている」を選択した児童は、全国49.3%に対し本校は39.2%であった。また、「家でテレビや動画を見たり、ゲームをしたり、SNSを利用したりしている」を選択した児童は、全国79.1%に対し本校は90.2%であった。勉強や読書より、テレビや動画、ゲーム、SNS利用に費やす時間が全国に比べ多いといえる。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・「めあて」と「まとめ」、「振り返り」を設定した基本的な学習の流れを大切にし、児童にとって見通しのあるわかりやすい授業を積み重ねることで、児童が主体的に学習に取り組むような授業を実践する。
- ・条件を設定した作文を書いたり、自分の考えを表現したりする活動を授業や学校生活全般、家庭学習の課題で取り入れていく。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・学習用端末を効果的に活用したり、家庭学習の課題に工夫を加えたりして、基礎・基本の学力向上と学習意欲を高めるようにする。
- ・定期的に本の紹介をして読書意欲を高めたり、新聞記事などを読む機会を設定して文章を読むことに慣れさせたりする。